

としまみどりの防災公園整備事業に関する協議状況

都市景観検討部会からの意見 部会開催日：平成 30 年 10 月 23 日	部会意見に対する事業者からの回答 (令和 2 年 2 月時点)
1. 本計画地は、基盤整備方針 2018 においてアート・カルチャー・ハブの核として位置づけられていることから、当計画及びその周辺と連携し、アート・カルチャー活動の拠点となるアート・カルチャー・ハブを育成していくこと。育成にあたっては、基盤方針に掲げられた育成する機能を導入し、地域のハブとして育成するよう検討されたい。	別紙参照
2. 災害時において当該公園は、一時待機場所や物資集積所の機能が求められており、園内にトラックなどの進入などが想定されている。大雨など最悪の状況においても防災機能が確保できるように、インターロッキング舗装や耐圧路盤の範囲など検討されたい。	防災公園としての使い方など考慮し、大型トラック駐車スペースについては芝生からインターロッキング舗装に変更するとともに、耐圧路盤範囲についても見直しを行った。
3. 他の公園と同じような一律の整備ではなく、求められる機能や地勢・周辺状況を踏まえたデザインとし、当該公園ならではのアイデンティティーをもった整備・運用になるよう検討されたい。	スモールビジネスを受け入れる場となる KOTO-PORT の運用や、生活インフラとなる毎週末開催予定のファーマーズマーケット、防災やアート・カルチャーをテーマにしたワークショップ・イベントの開催を予定。これらにより従来とは異なる独自性のある公園の風景が生まれると考えている。また、イケバスや隣接するキッズパークを手がけた水戸岡鋭治氏デザインにより、アートサインの代替として展望台を設置する予定。
4. 公園とまちとの接続について、横断歩道の位置など調整するよう検討されたい。	現時点で、周辺道路の横断歩道の位置の変更はないと聞いている。そのため、横断歩道位置と公園入口の距離が離れていた、倉庫棟の横に新たに入口を設けた。
5. 南側の補助 176 号線に面した箇所について、地区計画等の法令遵守は当然であるが、道路利用の歩行者にとって圧迫感がないよう検討されたい。	防火樹林と同等の常緑樹 (H8.0) を配植し壁面の圧迫感の緩和を図る。また、建物にスリットデザインを入れるなどして、長大な壁面に感じさせないよう工夫した。

<p>6. 防災機能について、当計画単独で考えるのではなく、周辺の民間施設等とも連携を図るよう検討されたい。</p>	<p>災害時の区と指定管理者・事業者（カフェ、KOTO-PORT）の役割分担の明確化と対応マニュアルの作成や、防災のための住民組織の立上げ・育成、意識啓発のための防災イベントやワークショップの実施などを予定している。</p> <p>また現在、隣接するサンシャインシティと連携した合同防災訓練や防災イベントの実施についても協議を進めている。</p> <p>大学は、災害時に利用可能なトイレや備蓄倉庫を設置予定であり、連携に係る具体の方策については、今後協議調整を進める予定。</p>
<p>7. 赤い低速 EV バスについて、当計画地へのアクセス方法や園内のバス停など、安全性や利便性を踏まえ、検討されたい。</p>	<p>イケバスの当公園への進入ルートについて、警察協議の結果、公園北東角（大学用地と公園の境界付近）の入口にガードマン3人を配置する条件で右折進入が許可された。バス停は、メインエントランス付近に設置する予定。</p>

としまみどりの防災公園の アート・カルチャー・ハブ説明資料



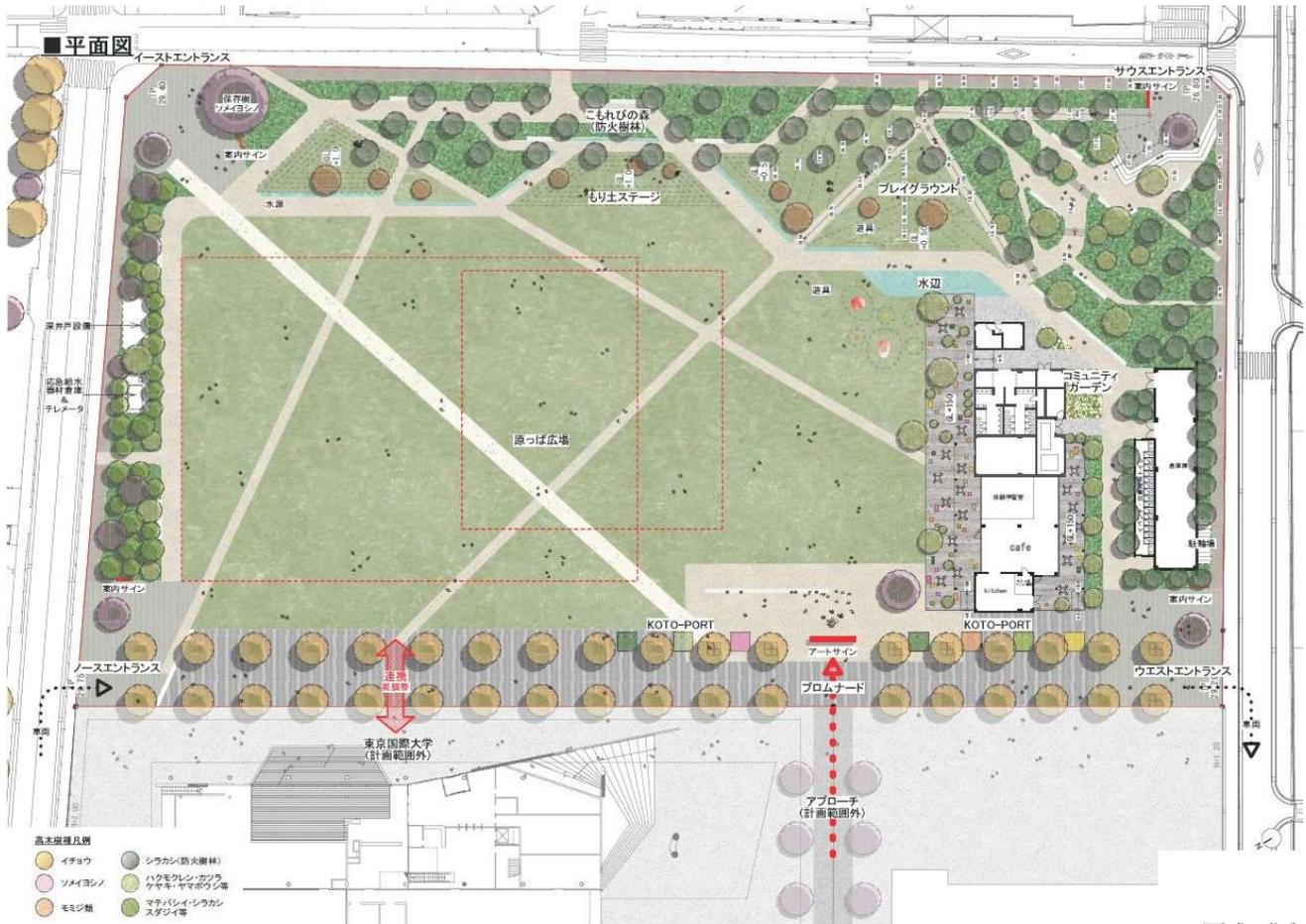
としまみどりの防災公園は、区内最大規模の公園であり、東側は木造住宅密集地域に隣接し、東側の住宅地と西側の商業・業務集積の境に位置する。平常時には周辺施設と一体となった賑わいの空間となり、災害時には防災活動拠点となる。また、カフェ事業者と連携したワークショップ、周辺施設との連携により、アートカルチャーハブとして育成していく。

機能	防災公園	周辺施設
	区の街中サインを園内に整備予定。	区の街中サインが池袋駅や東池袋駅周辺に整備されている。
	区内最大面積（1.7ha）の園内中央に約6,000㎡の原っぱ、各所にベンチを常設。また、観劇後の余韻を楽しむアフター・ザ・シアターを実現するための園内照明を導入。さらに、管理棟と併設でカフェを整備し一年を通じて公園に滞在できる機能・サービスを有している。	大学用地の公募条件で、防災公園と一体となり、賑わい空間を形成し、地域に開かれた施設を設置することとしており、大階段から繋がる部分をインターナショナルデッキとして地域開放することで、キャンパスの中心となる賑わいの舞台を形成する計画となっている。
	コミュニティガーデンを活用した地域コミュニティの形成や、地域防災力の向上に観点を置いた防災コミュニティの形成事業を予定している。また公園近隣の企業等との連携についても合わせて検討を行っている。	大学用地の公募条件で、建物内に交流を図る施設を設置することとしており、英語・外国人に慣れ親しむ場や多国籍料理を提供するカフェを地域に開放することで、国際文化の交流を促進する計画となっている。
	イケバスのバス停や自転車駐車を整備。	街区に隣接するサンシャインには、バスターミナル、駐車場の都市施設が整備されている。
	防災公園としての特色を生かした、防災訓練やアウトドア用品を活用したイベントなど実施予定。スモールビジネスを受け入れるKOTO-PORTの運用、アートカルチャーをテーマにしたワークショップ・イベント等の開催を、管理運営事業者から区へ提案している。	

アート・カルチャー・ハブ

特徴	池袋駅周辺地域におけるアート・カルチャー活動の拠点。回遊の目的地であるとともに、周辺の施設と連携した回遊の拠点となる
場所	4つの公園（池袋西口公園・中池袋公園・南池袋公園・造幣局地区防災公園）と、公園を核とした周辺民間施設。（他は必要に応じて新たに整備）
育成主体	民間開発事業者と公共が連携して整備する
育成する機能	◎ 滞留機能 ◎ 誘導機能 ◎ 交流機能 ◎ 移動機能 ◎ 発信・受信機能

■ 平面図(変更前)



■ 変更箇所図

